

第1回横浜市水道事業の将来を考える懇談会の概要

1 懇談会の日時及び場所

平成26年6月10日（火）15時～17時 水道局本庁舎10階大会議室

2 出席者（五十音順）

浅見 真理 氏（国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官）

今泉 マユ子 氏（横浜市水道局水のマイスター）

臼杵 ひろみ 氏（株式会社ファンケル 社長室長 兼 CSR 推進事務局長）

佐藤 裕弥 氏（株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 地域経営研究室 室長）

外山 薫 氏（横浜災害ボランティアネットワーク運営委員）

長岡 裕 氏（東京都市大学 工学部 教授）

山崎 洋子 氏（作家）

（横浜市水道局 水道局長、全部長（9人）、経営企画課長）

3 内容

水道事業の現状、経営環境の動向、中長期的な経営課題など

4 懇談会当日の様様



5 主な意見等

- ・ 水道の事業環境の変化に対し、今後は国のビジョンを踏まえて県単位の広域的な検討が必要ではないか。
- ・ 職員削減に努めてきたが、将来に向け、持続可能な組織・体制の検討が必要ではないか。
- ・ 身近で重要な水道水の安全性、耐震化の状況、防災備蓄の啓発などの情報が、ほとんどお客さまに届いていない。今後、お客さまとのコミュニケーションについて検討すべき。
- ・ 節水意識が高いことは、世の中にとってはよいことだと思う。一方、水道局としては、より水道水を使ってもらいたい思いがある。今後、そういうジレンマを整理する必要があるのではないか。
- ・ 皆、水源は当たり前にあると思っている。しかし、環境の変化が進む中、どのように水源を保つのかを長期的に考える必要があるのではないか。
- ・ 水道水とペットボトル水の一部は水道局、浄水器や宅配水は民間企業というすみ分けで本当がいいのか。
- ・ 企業には、新規事業を興すために研究機関が設けられている。新しいものをつくり出す機関を設けて、事業を廻した方が、より水道事業の持続に寄与するのではないか。